

平成25年10月1日

各小学校長・PTA会長 様

地島校区漁村留学を育てる会
会長 前田 浩昌
宗像市立地島小学校
校長 有馬 宏

平成26年度(第12期)漁村留学生募集のご案内

日増しに秋の深まりを感じる季節になりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来年度で12年目を迎える地島校区漁村留学制度ですが、その留学生募集については毎年、県下各小学校へご案内をさせていただいています。

つきましては、同封の募集案内を校内に掲示していただければ幸いです。また、募集案内をコピーしていただき、該当する学年の児童(現3年生・4年生・5年生)に配布いただければ助かります。どうぞご協力のほどよろしくお願ひします。

なお“昨年度留学生保護者・児童・地域の感想”や“なぎさ通信”を資料として同封しておりますのでご参考にさせていただきます。

記

- 1 受け入れ学年 平成26年度の4年生・5年生・6年生の男女(全員で6名程度)
- 2 受け入れ条件 ① 体験を通して自立性を養おうとする健康な児童
② 児童・保護者の双方が漁村留学の趣旨をよく理解し、熱意があること
- 3 留学期間 1ヶ年(平成26年4月1日～27年3月31日)
- 4 委託料 生活費として毎月4万円程度、他に各学期3万5千円程度(学校費等)
- 5 募集期間 平成25年10月1日～平成25年12月24日
- 6 説明会 平成26年1月11日(土) 予定 *会場 宗像市立地島小学校
- 7 過去の実績(受け入れ人数)
 - 第1期平成15年度 5名<男2女3>(宗像市3 北九州市1 春日市1)
 - 第2期平成16年度 6名<男4女2>(宗像市1 北九州市1 福岡市2 古賀市2)
 - 第3期平成17年度 6名<男3女3>(宗像市2 北九州市1 福岡市2 春日市1)
 - 第4期平成18年度 6名<男4女2>(宗像市2 北九州市1 福岡市2 大野城市1)
 - 第5期平成19年度 7名<男5女2>(宗像市2 北九州市1 福岡市1 古賀市1 田川市1 黒木町1)
 - 第6期平成20年度 6名<男4女2>(宗像市2 福岡市2 うきは市1 みやま市1)
 - 第7期平成21年度 6名<男4女2>(宗像市2 北九州市1 須恵町1 志免町1 うきは市1)
 - 第8期平成22年度 5名<男2女3>(宗像市2 福岡市1 朝倉市1 志免町1)
 - 第9期平成23年度 5名<男3女2>(宗像市3 北九州市1 福岡市1)
 - 第10期平成24年度 5名<男4女1>(宗像市2 直方市1 福岡市2)
 - 第11期平成25年度 5名<男2女3>(宗像市2 福津市1 みやま市1 千葉県1)
- 8 応募・問い合わせ先等
 - 「地島校区漁村留学を育てる会」事務局(なぎさの家)
TEL・FAX 0940-62-3394
 - *留守の場合・昼間 地島小学校(教頭まで)
TEL. 0940-62-1171 FAX. 0940-62-1911
 - 連絡・受付後、資料を郵送、または、FAXいたします。

なぎと通信

2013年
10月

地島校区漁村留学制度

平成一五年度から始まった漁村留学制度は、今年で十一年目を迎えることとなりました。毎年、五七名の留学生を受け入れ、漁村留学センター「なぎさの家」で指導員や寮母さんとともに生活を送ります。集団生活を通して、子どもたちの基本的な生活習慣や規律、助け合う心、自立心などの社会育成を目指しています。今までに漁村留学を卒業した子どもは五十二名。その多くが今でも夏休みや行事の際に島へ遊びに来ており、交流が続いています。

漁村留学十一期生の半年

指導員 竹井 ゆかり

藤木 美里

今年は、5年生5名(男子2名、女子3名)と指導員2名がなぎさの家で共同生活を送っています。早いもので、留学期間も残り半年となりました。半年間の間に、地島の方との交流や、行事への参加などたくさんのご経験をさせていただきました。地島の方々の支えの下、少しずつではありますが、子どもたちもそれぞれに成長しているのではないかと思います。残りの半年間、地島の方々など多くの人への感謝の気持ちを忘れずに、共に助け合いながら、みんなで頑張っていきたいと思えます。

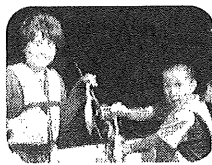
地島一周クルージング

会長さんの漁船で、地島の周りを海の上から探検しました。灯台やハート岩、いつもは見ることができない地島の姿を発見することができ、みんな満面の笑顔でした。何よりも、潮風や波を身近に感じられる、漁船でのクルージングは最高です！



イカ釣り体験

この日も会長さんの漁船に乗せてもらい、夜のイカ釣りへ出かけました。島の漁師さんにも手伝っていただき、みんなでトコ箱(発泡スチロール)でできた魚を入れるための箱)3つ分のイカを釣りました。釣ったイカは、みんなで仲良く分けて、お家に持って帰りました。



ホームステイ

年に数回ホームステイがあり、留学生だけでなく島の方のお家へ泊めていただきます。

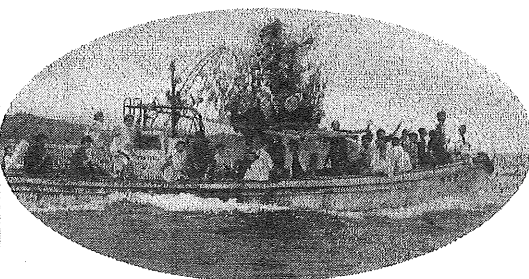
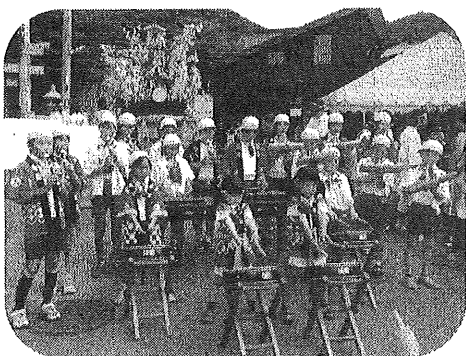
ホームステイ先では、お手伝いやお話をしながら、いろいろなことを教えていただき、交流を深めます。また、島の方に留学生のことを知ってもらおう、とても良い機会でもあります。

地島山笠

毎年七月十五日、地島では山笠が行われます。山笠の日は、島の大人から子どもまで、朝から大忙し。子どもたちは山車の綱を引き、「わっしょい！わっしょい！」という掛け声とともに、町内を一生けん命に駆け回りました。島の方々も、「がんばれ！」と笑顔で応援してくれます。

地島山笠では、山車を船に乗せて移動させる姿が見られます。海の上の山車はとても美しく、一度見ると、忘れられません。

当日は絶好の山笠日和で、島の方々と一緒にみんなで汗水を流しながら、とても良い経験をさせてもらいました。



漁村留学を体験して

5年（留学時）男子保護者

学校から配布された1枚のプリントが漁村留学のきっかけとなりました。当時、子どもは小学4年生。1年間親元を離れての集団生活は、親としましては多少の不安や迷いもありましたが、子どもの強い願望もあり、社会勉強になるのではと思い送り出すことにしました。

「なぎさの家」での集団生活は、午前6時半起床、午後9時就寝、ゲーム禁止、テレビは1日1時間。自分で布団を片づけ、洗濯物をたたむ、部屋掃除や食器洗い等の役割分担がありました。家では何一つさせたことがありませんでしたので、当初はかなり苦労したことだろうと思います。

地引網体験、ろこぎ体験、漁船クルージング等の漁村ならではの行事を通じて島の生活に溶け込んでいき、島への愛着が深まってきました。

地域の方々は、皆さん親切で人情深い方ばかりでしたので、子どもはホームシックにかかることはありませんでした。

海と山に恵まれた地島で自然を満喫し、留学生の仲間とは互いに切磋琢磨し合う存在となりました。

地域の方々との交流の中で、人とつながることの大切さ、伝統の素晴らしさを学び、一回り大きく成長して帰ってきたと思います。

このような貴重な経験をさせていただいたことに、心より感謝いたしております。

漁村留学を終えて

第10期漁村留学卒業生 5年(留学時)

地島漁村留学のパンフレットを見て、地島で釣りやいろいろな体験をした
と思いました。留学が決まった時、不安もあったけれども1年間地島で
がんばっていかうと思いました。

地島の生活は、朝早くそうじなど大変だったけれど、今では上手にでき
るようになりました。

学校の行事で心に残っているのは、全島大運動会です。なかなか一輪車
に乗れずに苦労しました。乗れるようになるまで、たくさん練習をしまし
た。すべての技が成功したのでうれしかったです。

6人の留学生とはすぐに仲良くなりました。上級生には、勉強を教えて
もらいました。留学生の中で6年生は1人だけでした。みんなを引っばっ
ていたので、そんけいしています。

留学して感じたことは、島の方々が、優しくて親切なことです。ろこぎ
体験、山笠、みあれ祭り、椿祭りなどは、地島でしかできない体験です。
島の方々全員に感謝しています。

1年間お世話になり、ありがとうございました。



地域のねがい

私の好きな島、地島。宗像市の沖合に浮かぶ自然豊かな島です。人口180人ほどで、漁業を主に生活を営んでいます。島では、12～13年前に小学生の減少により小学校存続に不安を感じ、島民が一致団結をし、漁村留学事業を立ち上げ、今年で11年目になります。

事業の内容としましては、一年間漁村留学センター「なぎさの家」で指導員2人・寮母1人・留学生5～6人（小学校4～6年生）で共同生活を送っています。

子ども達は親元を離れ不安ではないかと思っておりましたが、島の子ども達とすぐに打ち解け、毎日元気よく学校に通っています。また、地域に慣れるために、年間5～6回島民の方の家にホームステイをして島の方の仕事（わかめの加工・立網など）の手伝いをしながら、島の昔話をしたり、海の仕事の話をしています。

一年間という短い間には、魚釣りやイカ釣り、磯遊び、イチゴ狩り、芋掘り、ミカン狩り等たくさんの活動を行っています。

10期生までの留学を終えた子ども達も現在は成長し、毎年7月の山笠や9月の運動会には多くのOB・OGの参加があります。

子どもたちにとっては、楽しい事やつらい事がたくさんあると思いますが、留学生だけでなく島の子どもにとっても貴重な体験ではないかと思えます。一年間の成長を見ますと、人への思いやり、がまんをすることができ、自分の身の回りのことができるようになってなぎさの家を卒業しています。

最後に、私も全島民もこの漁村留学事業が長く続くことを見守っていきたいと思えます。

地島校区漁村留学を育てる会
第10期実行委員長 吉田 稔